

合格

漢文攻略

漢文の読解



ステップ1

訓読

● 訓読とは

訓読とは、日本語とは語順が異なっている漢文を、日本語の読み方に変えて読むことをいいます。

白文^{はくぶん}…中国人が書いた文章や漢詩。

〔例〕 国破山河在。

訓読文^{くんじやくぶん}…白文に訓点をつけた文。訓点とは①送り仮名と②返り点のことです。

〔例〕 国破^レ山河^リ在。

書き下し文^{かくだいぶん}…訓点に従い漢文を日本語として読んだもの。送り仮名は歴史的仮名遣い^{れきしきかみなづい}のままひらがなに直す。

〔例〕 国破れて山河在り。

漢文を読む上で押さえておくことは次の二点です。

① 送り仮名

- 1 必ずカタカナ表記をする。
- 2 漢字の右下に漢字よりも小さくつける。
- 3 歴史的仮名遣いで書く。
カタカナで右下に小さくつける。

大器^ハ晩成^ス。

② 返り点

- 1 レ点^レ …一文字、上に返る時に使う。
- 2 一・二点^{一・二} …二文字以上、上に返る時に使う。

読^レ書^ヲ学^レ道^ヲ。

読む順序は

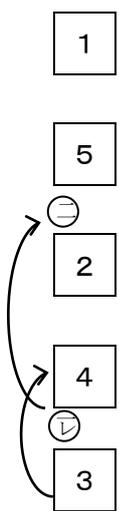


見^ル南山^ヲ。

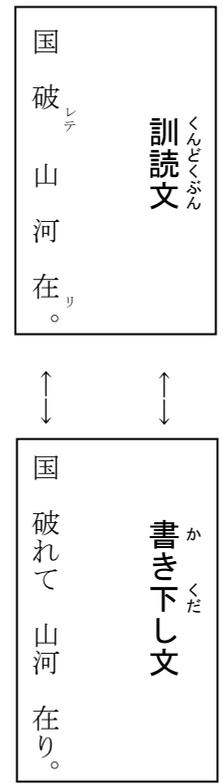
読む順序は



- 3 レ点 (いちれ点) …レ点を優先する。



返り点・送り仮名をつける



書き下し文にする際のルール

- 一 漢字はそのまま漢字にし、送り仮名はひらがなにする。
 - 大器晩成。 ↓ 大器は晩成す。
- 二 返り点がある時は、返り点に従う。
 - レ点 望山月。 ↓ 山月を望む。
 - 一・二点 帰郷。 ↓ 故郷に帰る。
- 三 仮名遣いは、歴史的仮名遣いのままにする。
 - 思郷。 ↓ 故郷を思ふ。
 - 有備無憂。 ↓ 備へ有れば憂ひ無し。

四 次の漢字は書き下し文に直す際に、ひらがなにする (助動詞や助詞の場合のみ)。

★例

- ① 歲月不待人。 ↓ 歲月は人を待たず。
- ② 己所不欲。 ↓ 己の欲せざる所。
- ③ 人之罪也。 ↓ 人の罪なり。

- 1 不 〓 ず 不 〓 ざ(ら・り・る・れ)
- 2 也 〓 なり
- 3 可 〓 べし
- 4 自 〓 よ(り)
- 5 之 〓 の
- 6 乎 〓 や
- 7 者 〓 は
- 8 与 〓 と

五 置き字…訓読しない漢字（書き下し文にする時に、書かない）

▼① 而 ② 於 など

① 学ンデ而 時ニ習フ之ヲ。
↓ 学んで時に之を習ふ。

② 苛政ハ猛ナリ於リ虎ヨリ。
↓ 苛政は虎より猛なり。

■ 練習問題 ■

1 次の□を漢字と考えて、読む順序を数字で記入しなさい。

例 □₂
□₁

⑤	④	③	②	①	例
□	□ _レ	□	□ _ニ	□ _レ	□ ₂
□ _ニ	□ _ニ	□ _ニ	□	□	□ ₁
□	□	□	□	□	
□	□	□ _レ	□ _一	□ _ニ	
□ _レ	□ _一	□	□ _レ	□	
□	□	□ _一	□	□ _一	

2 次の文を書き下し文にしなさい。

【例】明君制民之産。 ↓ 明君は民の産を制す。

(1) 王欲行_ス之_{ハントこれヲ}。

(2) 盡_{ツクシテ}人事_ヲ待_ツ天命_ヲ。

(3) 楚_ソ人_{ひと}有_リ涉_レ江_ヲ者_一。

(4) 何_ソ不_ル積_レ呉_ヲ而_レ患_レ越_レ乎_ヤ。

3 次の漢文の——線部はどのように読むか。あとの□に当てはまる書き下し文を書きなさい。

(1) 古_{いにしへの}之_の学_ハ者_ハ為_レ己_ヲ、今_ハ之_の学_ハ者_ハ為_レ人_{ニス}。

古の学者は己の為にし、今の学者は□。

(2) 一_{いっ}夕_{せき}輕_{けい}雷_{らい}落_{トス}万_{ばん}糸_し。

一夕の輕雷□。

(3) 時_ニ有_リ微_び涼_{りやう}不_ズ是_{コレ}風_{ナラ}。

□
是れ風ならず。

4 次の漢文の——線部はどのような順番で読むのが正しいか。〔例〕に
 ならって に数字を書きなさい。

〔例〕 読_ム書_ヲ。 ↓ 読_レ書
 2 1

(1) 遙_{ハルカニ}見_テ人_ニ家_ヲ花_{アレバすなはチ}便_ナ入_ル ↓ 遙_{ハルカニ}見_テ人_ニ家_ヲ

(2) 常_ニ観_{ジテ}世_ノ間_ヲ不_レ定_ス、 ↓ 常_ニ観_{ジテ}世_ノ間_ヲ不_レ定_ス、

■ 練習問題 ■

1 次の白文に、書き下し文に従って返り点・送り仮名を付けなさい。

① 父 為 子 隱
(父は子の為に隠す)

② 民 無 信 不 立
(民、信無くんば立たず)

③ 何 以 利 吾 国
(何を以て吾が国を利せん)

④ 以 為 失 其 事 也
(以て其の事を失ふと為せばなり)

⑤ 為 後 義 先 利
(義を後にして利を先にするを為す)

2 次の漢文の——線部に、書き下し文の読み方になるように返り点をつけなさい。

(1) 蓬 萊 定 不 遠
蓬萊定めて遠からず

(2) 口 吹 風 車 手 弄 瓦
口に風車を吹き手に瓦を弄ばしむるを

(3) 此 何 不 為 福 乎。
此れ何ぞ福と為らざらんや。

3 次の文の——線部がへーのような読み方になるように返り点・送り仮名を正しくつけたものをア～エから選び、記号で答えなさい。

王戎、七歳のとき、嘗かつと与しよせうじ諸小兒遊かつ。 (嘗かつて諸小兒と遊しよせうじび)、

ア 嘗かつニ与しよせうじ諸小兒遊かつニイ 嘗かつニ与しよせうじ諸小兒遊かつ
ウ 嘗かつ与しよせうじニ諸小兒遊かつニエ 嘗かつ与しよせうじニ諸小兒遊かつ

4 次の漢文を書き下し文にしなさい。

(1) 帰かへレ国くにニ。

(2) 思おもフ故郷こきやうニ。

(3) 歳とし月つきハ不まレ待まちタ人ひとニ。

(4) 一寸、光陰不まレ可べカラ軽かろシ。

(5) 人ひと不まレ学まなバ、不まレ知しラ道みちニ。

(6) 天地者、万物之逆旅りよなりのり。

(7) 他山之石、可べシ以もつテ攻みク玉たまニ。

(8) 吾十有五にんじゆ而志こころニ於おク学まなニ。

解答

練習問題

1 次の□を漢字と考えて、読む順序を数字で記入しなさい。

例 □
2
レ
□
1

① □
2
レ
□
1
□
3
□
6
レ
□
4
□
5
レ

② □
4
レ
□
1
□
2
□
3
レ
□
6
レ
□
5
レ

③ □
1
□
6
レ
□
2
□
4
レ
□
3
□
3
□
5
レ

④ □
5
レ
□
4
レ
□
1
□
2
□
3
レ
□
6
レ

⑤ □
1
□
6
レ
□
2
□
3
□
5
レ
□
4
レ

2 次の文を書き下し文にしなさい。

例 明君制民之産。 ↓ 明君は民の産を制す。

(1) 王欲行^ス之^{ハントコレヲ}。

王之行はんと欲す。

(2) 盡^{ツクシテ}人事^ヲ待^ツ天命^ヲ。

人事を盡くして天命を待つ。

(3) 楚^ソ人^{ヒトニ}有^リ涉^{ワタル}江^ヲ者^ニ。

楚人に江を渉る者有り。

(4) 何^ツ不^ル積^{ユルシテ}吳^ヲ而^ニ患^{ウレヘシメ}越^ヲ乎^ヤ。

何ぞ呉を積して越を患へしめざるや。

置き字…書き下し文にするとき
には書かない。

3 次の漢文の——線部はどのように読むか。あとの□に当てはまる書き下し文を書きなさい。

(1) 古^{いにしへの}之^の学^ハ者^ハ為^レ己^ニ、今^{イマ}之^の学^ハ者^ハ為^レ人^ニ。

古の学者は己の為にし、今の学者は□。

人の為にす

(2) 一^{いっ}夕^{せきノ}輕^{けい}雷^{らい}落^{トス}万^{ばん}糸^{しヲ}。

一夕の輕雷□。

万糸を落とす

(3) 時^ニ有^リ微^び涼^{りきやう}不^ズ是^{コレ}風^{ナラ}。

□
是れ風ならず。

時に微涼有り

4 次の漢文の——線部はどのような順番で読むのが正しいか。〔例〕に
ならって□に数字を書きなさい。

〔例〕 読_ム書_ヲ。 ↓ 読_レ書
□2 □1

(1) 遥_{ハルカニ}見_テ人_ニ家_ヲ花_{アレバすなはチ}便_ハ入_ル ↓ 遥₁見₄人₂家₃

(2) 常_ニ観_{ジテ}世_ノ間_ヲ不_レ定_ス ↓ 常₁観₆世₂間₃不₄定₅

練習問題

1 次の白文に、書き下し文に従って返り点・送り仮名を付けなさい。

① 父^ハ為^レ子^ノ隱^ス
 (父は子の為に隠す)

② 民^{無^レ信^{クンバ}}不^レ立^タ
 (民、信無くんば立たず)

③ 何^ヲ以^テ利^ニ吾^ガ国^ヲ
 (何を以て吾が国を利せん)

④ 以^テ為^レ失^ニ其^事也^ヲ
 (以て其の事を失ふと為せばなり)

⑤ 為^ニ後^レ義^ヲ先^ニ利^ヲ
 (義を後にして利を先にするを為す)

2 次の漢文の——線部に、書き下し文の読み方になるように返り点をつけなさい。

(1) 蓬^{メテ}菜^ズ定^ズ不^レ遠^{カラ}
 蓬菜定めて遠からず

(2) 口^ニ吹^キ風^ニ車^ヲ手^ニ弄^{バシムルヲ}瓦^ヲ
 口に風車を吹き手に瓦を弄ばしむるを

(3) 此^レ何^ソ不^{ゼラン}為^ラ福^ト乎^ヤ。
 此れ何ぞ福と為らざらんや。

3 次の文の——線部がへーのような読み方になるように返り点・送り仮名を正しくつけたものをア～エから選び、記号で答えなさい。

王戎、七歳のとき、嘗かつ与と諸小兒遊しよせうじ（嘗かつて諸小兒と遊び、

ア 嘗かつ与と諸小兒遊しよせうじ イ 嘗かつ与と諸小兒遊しよせうじ
ウ 嘗かつ与と諸小兒遊しよせうじ エ 嘗かつ与と諸小兒遊しよせうじ

★書き下し文の「と」は、「与」。

4 次の漢文を書き下し文にしなさい。

(1) 帰かへ国くに。
★太字は、平仮名にしなさい。

国くにに帰かへる

(2) 思おもふ郷きやう。

故郷こきやうを思おもふ

(3) 歳さい月げつ不ず待た人ひと。

歳月さいげつは人ひとを待たたず

エ

(4) 一いち寸すん、光陰くわういん不ず可べ軽けい。

一寸いちすんの光陰くわういん軽けいんずべからず

(5) 人にん不ず学がく、不ず知ち道だう。

人にん学がくばざれば、道だうを知らず

(6) 天地てんち者は万物ばんぶつ之の逆ぎやく旅りよなり。

天地てんちは万物ばんぶつの逆ぎやく旅りよなりなり

(7) 他山たさん之の石いし、可べ以もつ攻み玉ぎよく。

他山たさんの石いし、以もつて玉ぎよくを攻みべし

(8) 吾われ十じゆ有あ五ご而して志し於に学がく。

吾われ十じゆ有あ五ごにして学がくに志しす